

平成29年度 第1回江別市行政評価外部評価委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成29年8月29日（火） 15時00分から17時00分

場 所：江別市民会館 32号室

出席委員：井上宏子委員長、千里政文副委員長、武岡明子委員、山下善隆委員、菅原涼子委員、小原克嘉委員、小野寺さゆみ委員（計7名）

事務局：企画政策部北川部長、企画政策部福島次長、政策推進課中島参事、天明屋主査、坪松主査、毛利主査、山口主事

傍聴者：0名

会議概要

1 開会

2 議事

（1）平成29年度行政評価外部評価委員会の進め方について

○井上委員長

議事（1）について、事務局から説明願う。

【事務局から議事（1）を説明】

- ・資料1 平成29年度行政評価外部評価委員会の進め方
- ・資料2 江別市行政評価外部評価委員会における外部評価の視点
- ・資料3 平成29年度行政評価外部評価対象事業一覧
- ・資料4 平成28年度えべつ未来戦略推進計画書

○井上委員長

事務局からの説明に対し、意見等のある委員は発言願う。

【質疑なし】

（2）えべつ未来戦略における戦略1・戦略4構成事業の概要説明

○井上委員長

それでは、続いて議事（2）について、事務局から説明願う。

【事務局から事業（2）を説明】

- ・資料5 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表（平成28年度実績）
（P1～P2）

事務局から議事（2）のうち「協働を知ってもらう啓発事業」を説明

【質疑】

○山下委員

この事業は協働ということで、「ともにつくる協働のまちづくり」につながっている事業と理解している。この事業は協働を知ってもらうことのみを目的としている事業なのか、またはその後別の事業につながる事業なのか。

○事務局

協働は目的ではなく手段という言われ方をする。戦略は昨年まで外部評価していた
だいた戦略2（えべつの将来を創る産業活性化）・戦略3（次世代に向けた住みよい
えべつづくり）を支えるような位置づけである。協働の事業が進むことにより、産業
の活性化や住みよいまちづくりが推進されると考えている。

○井上委員長

その回答は、具体性に欠けるのではないか。小学生・中学生を対象の出前講座やリ
ーフレット配付を行い、それによって子ども達にどのような効果があるのか。

○事務局

評価表では、小学生・中学生に啓発することにより、子どもから親などに家庭の中
で協働の話をしていただき、波及していくと記載がある。

以上については所管課へのヒアリングや文書照会で確認することになる。

○山下委員

この事業の意義が不明であり、300万円を超える事業費を使う価値があるのか。
「成果指標」の「啓発を受けた小学生・中学生」は出前講座を受講した人数というこ
とではないか。講座の開催が増えるだけ受講者も増える。受講したあとに、市民協働
に参加した人がどのくらいいるのか。その部分を計らないと成果とはいえないのでは
ないか。

○事務局

そちらについては所管課からヒアリング等で確認していただきたい。

○山下委員

先程の件だが、「成果指標」の内容が「活動指標」になっている。出前講座受講後
に市民協働に参加した人がどのくらいいるのかが分からなければ成果とはいえないの
ではないか。

○千里副委員長

市民が協働をどのくらい知っているのか。出前講座受講後に市民協働に参加するこ
となどは目に見えるものではないため、事業を実施したという報告になってしまっ
ている。成果を見せることは難しいが、子どもが協働を理解し、教わったことをフィ
ードバックできるかを評価表に表現できるのならば説得力が出てくるのではないか。

○事務局

「成果指標」が「活動指標」になっており、成果が指標では見えていない。適切な
「成果指標」を検討する必要があると事務局も感じている。

○千里副委員長

子どもに関してはすぐに成果は出ない。成果が出るまで5年や10年など長期間か
かることもあるが、効率的に事業を行っていただきたい。

○井上委員長

なぜ対象を小学4年生・6年生、中学2年生に設定したのかが分からなければ、効

果が計れない。この事業は何年計画で行うのか、江別市では何を育てたいのかがはっきりすると事業の意図が見えてくる。

リーフレットをただ配付するだけであれば、学校教育に任せれば良いとなってしまう。事業として費用を使い、リーフレットを制作する必要がないのではないか。事業内容としては悪くないと思うが、市民に対して必要な事業であるか否かは、この評価表では伝わってこない。また、「上位貢献度」について「上位計画へ大きく貢献する」とあるが、どのような貢献を期待しているかを記載しないと不十分であると思う

○小野寺委員

「手段」に「リーフレット等配付」とあるが、毎年度作り直しているのか。また、「出前講座」とあるが、これは誰が行っているのか。実務経験がある方なのか、市職員が行っているのかを知りたい。

また、「指標・事業費の推移」での対象が「小学4年生・6年生」「小学4年生・中学2年生」とあるが、全員に対して講座を行っているのか。さらに、平成28年度から平成29年度では対象人数が減少しているのに対し、人件費は増加しているが、その理由が評価表からは読み取れない。

○事務局

評価表の裏面に全小中学校を回っていると記載している。リーフレットを毎年作り直しているかという件は、所管課に確認させていただきたい。

○井上委員長

今後、全体的にヒアリングするのか、又は書面にて評価するのは次の段階で検討したいと思う。

他に意見がなければ、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から事業（2）を説明】

- ・資料5 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表（平成28年度実績）（P3～P4）

事務局から議事（2）のうち「市民協働推進事業」を説明

【質疑】

○山下委員

「市民協働」と「市民活動」の定義を教えてほしい。定義が分かっているならば分けて記載して欲しい。

市民活動を活発にすることの市にとってのメリットが分からない。費用をかけて事業を実施する意味があるのか、成果指標に記載されていない。市民活動に補助金を出した場合、市民活動団体はその成果を出しているか、また、その成果を計っているのか。

「市民活動」が重要ならば、なぜ「成果指標」に市民活動団体数がないのか。「市民活動団体数」が「対象指標」になっているが、これを増やすことが大事なのではないか。補助金を出す相手なので対象なのかと思われても仕方がない文面である。

市民活動一つ一つに補助金を出すだけでなく、補助金を出した団体に成果を確認する必要があるのではないか。

○井上委員長

「手段」として1から4まで記載しているが、この部分を担当者が整理できていないように思う。1・4は補助をすること、2・3は事業啓発となっており、振り分けが出来ていないのではないか。協働で何かを作り上げる事業には読み取れないと思う。

○小野寺委員

事業の「対象」が、「市民・市民団体（ボランティア・NPO）」とあるが、任意団体のみが対象なのか。

○事務局

ボランティアというのは任意団体として記載したと考えられる。

○小野寺委員

法人は対象となっていないのか。

○事務局

法人のNPO団体は対象となっている。

○小野寺委員

NPOというのは、NPO法人も含むのか。

○事務局

NPO法人も含まれる。

○小野寺委員

その部分は記載がなく、分かりづらいので記載してほしい。

○井上委員長

「対象」に記載してある市民団体数は補助金申請をした団体として記載しているため、市民活動団体の中でも少人数の組織や活動を継続して行っても助成金を申請していない場合は団体としてカウントしていないのではないか。

○小野寺委員

記載方法で、NPOとNPO法人は法人格の有無が関係するため気になった。

○山下委員

「NPO」を日本語で書いた方が良いと思う。「非営利団体法人」であるが、分かる人と分からない人がいる。誰にでも分かる記載にした方がよい。

○井上委員長

他に意見がなければ、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から事業（2）を説明】

・資料5 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表（平成28年度実績）（P5～P6）

事務局から議事（2）のうち「自治会活動等支援事業」を説明

【質疑】

○山下委員

まず江別市に自治会は必要なのか。政令指定都市でもやめている地域がある。江別市が必要であると思うならば、市や市民は自治会によって何が助かっているか具体的に「成果指標」で示してほしい。「成果指標」が「セミナー参加者数」では不十分である。

○事務局

セミナーの参加者数を増やすことは、この事業の意図と整合性がとられていないので成果指標としてふさわしくないと事務局でも理解している。

○小野寺委員

この事業ではセミナー以外の活動もしていると思うがその部分の記載がなく、「活動指標」が「セミナー開催数」だけになっており、平成28年度は2回、今年度も1回のみの実施である。事業費全体でも170万円程かかっているが、市民感覚ではセミナー参加者数の30人のみに対し、その金額をかけているのかと不安に感じる。セミナー以外に活動をしているのならば記載すべきである。

担当課評価(3)「成果動向及び原因分析」では「参加者からも好評を得ている」とあるが情緒的なことではなく、目的を達成しているのか、費用の使い方が妥当なのかを示していただきたい。

○井上委員長

自治会活動について小原委員は何か意見あるか。

○小原委員

自治会の必要性はこれから益々高くなるのではないか。高齢化が進み、役員のなり手も少なく困っているが、これは国全体の動き、労働環境が大きく変化したためである。以前は、定年を迎えて年金生活となり時間もあつたため地域に貢献しようとしていたが、現在は働かないと生活ができない現状がある。それを支え合いながら、市でも地域の役員や期待できる若者に働きかけ、掘り起こしをすることに意味がある。しかし、成果だけでは理解しづらいため疑問点は出てくるが、市民が見て納得する書き方をしてほしい。

○井上委員長

「事業を取り巻く環境変化」などに小原委員が発言したことを盛り込み、市としてどうしていくと良いかの記載があれば良いが、現時点では非常に読み取りにくい。若者を必要とすることが協働につながるのか、セミナーをどのように考えているのか、市民目線で記載されるならば一つの事業として納得できる。

○小原委員

「事業開始背景」や「事業を取り巻く環境変化」を納得できる書き方にしていただけると市民は分かりやすい。

○事務局

総合計画は平成26年度から始まったが、各指標は策定時に設定している。継続し

て数値を測るということで、基本的には指標は変えない方針となっていた。しかし、外部評価委員会はこれまで3年行ってきたが、指摘を受けた部分については例外として変えている。今回の意見を踏まえて後期にむけて、成果指標の見直し検討をもう一度行う予定である。

○山下委員

後期計画の見直しをするならば、引継ぎをしっかりと行わなければまた同じようになる。継続することもわかるが、一つのきっかけとして理解してもらいたい。市職員が難しいことを市民が行うことはおかしい。市職員が「市民協働」や「市民活動」の定義がわからないのは残念なことであるため、それを共有・理解する場を後期に向けて作ってほしい。

○千里副委員長

自分でも自治会に入っているが、江別市は政令指定都市ではないので、自治会は非常に重要になっている。しかし、残念なことに行った活動を表現をしないと、活動していないように見える。その場合、この事業が必要ないと見られるため、熱心に活動していることが分かるように活動・成果を記載していくと良い。セミナーの内容などどのような活動があり、どのような成果があったかをこの資料を見てわかるように書いていただきたい。

○武岡委員

昨年度も委員会の中で記載が不親切、分かりにくいという意見を幾度となく申し上げている。今年度この事業が外部評価の対象になっていることを所管課は理解しているのか。

また、資料2にある外部評価の4つの視点も理解しているか。

○事務局

対象事業及び視点についても説明している。

○武岡委員

その上での内容だと残念に思う。外部評価の意義の一つは、第三者の目を通じて評価をすることで、担当していると分からない視点からの気づきを得ることだと思う。

外部評価で出た違う視点からの意見を市全体で共有できる仕組みが必要ではないか。

今年度は最終年度でもあり、そういったまとめの必要性を強く感じている。

○井上委員長

他に意見がなければ、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から事業（2）を説明】

- ・資料5 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表（平成28年度実績）（P7～P8）

事務局から議事（2）のうち「大学版出前講座支援事業」を説明

【質疑】

○山下委員

「手段」に「出前講座を支援する」と記載があるが、どういう目的でどのような成果が出ているかがわからない。役立つことを実施していると思うが、この評価表を見るだけでは分からず、市民がこれを見たとしてもわからないのではないか。そもそも「成果指標」が「出前講座参加者数」だと成果とはいえない。

また、担当課評価（１）「目的妥当性」について、まちづくりの推進に有効とあるが具体的に記載されていない。

担当課評価（２）「上位貢献度」では、大学と地域の連携が図られることは重要だと思うが、何のために必要か、また、市にとってどのような良い影響を与えるかどうかという説明がない。

担当課評価（３）「成果動向及び原因分析」では、認知や評判と記載があるが、これが誰にとって何をもたらされたかがわからない。この部分の認知や評判が「成果指標」となるのではないか。

担当課評価（４）「成果向上余地」にも出前講座について記載があるが、ほかにも実施していることがあるのではないか。事業を幅広く行い、市に色々な成果をもたらしているのではないのか。

○井上委員長

大学の先生など講師を務めてくださる方々は、可能な範囲で地域に協力・貢献してくださっている。長期的に見ていくと、学びが「まちおこし」につながる効果を生み出していると思う。講座内容・市民参加意向・実施回数などから、この事業の成果を表すことができるのではないか。

○千里副委員長

評価表を作成するときは、市民の目線で、市民が見て分かるように記載してほしい。

出前講座のメニューは数多くあり、時間を調整し、準備にかかる費用も大学が負担している。実際の事業費はもっとかかっている。その中で大学の先生方も関わっているので、出前講座を知っている人は分かるが、知らない人でも分かるようにしていただきたい。

大学と市民の日程調整などが大変で市職員も人件費がかかっているのです、そういった実態も書いてほしい。

○井上委員長

実態をしっかりと理解して評価表に記載してほしい。

○千里副委員長

市職員が事業の取組を行っていないとは思わないが、書き方でそう思われることは残念である。

○井上委員長

他に意見がなければ、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（２）を説明】

・資料5 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表（平成28年度実績）（P9～P10）

事務局から議事（2）のうち「大学連携調査研究助成事業」を説明

【質疑】

○小野寺委員

「事業開始背景」・「事業を取り巻く環境変化」について内容が不十分であるため具体的に記載してほしい。

担当課評価（3）「成果動向及び原因分析」では、「研究成果がまちづくりに生かされている」と記載しているが、市民の立場からするとどのようなことに生かされているかが分からない。

担当課評価（5）「効率性」については、「要綱改正などの必要な整備は行ってきた」と記載されているので、継続的な取組をしていることは分かるが、いつどのように行ったか、もう少し詳しく記載すると意味が分かると思う。

○井上委員長

平成28年度事業報告会を開催しているのであれば、成果が見られなくても、研究テーマは記載したい。先生方の専門分野を活かしての研究であって、市民に知ってほしいと思っているはずである。

○山下委員

全体を通じて具体性に欠けている。

「意図」に「研究を行う・活かされる」と記載があるが、市や市民にどのように活かされているかがわからない。

このような記載の仕方は、事務局にも責任がある。事務事業評価表は市民が市の活動を理解する重要なものである。記載方法について研修を行っていただきたい。

○事務局

行政評価の研修については、新人、係長職に昇任する職員向けに毎年行っており、管理職に対しても3年に1回程度行っている。

毎年、議会に事務事業評価表を提出しており、各議員からも内容について確認していただいているが、事務局としても、啓発や研修内容を見直していく必要があると感じている。

○千里副委員長

大学連携調査研究助成事業には当初から関わっているが、「成果」は多数の候補から江別市や市民に必要なものを厳選し、この「補助事業本数」になっている。本数の増減ではなく、予算内で何事業できるかが問題であるので、その内容をもう少し見えるようにすると良い。4大学・1短期大学がある江別だからこそできる良さであり、学生がいるからこそ実施できている事業なので、実態も含めて記載すればより理解できる。研究成果を発表する事業報告会を行っているので、その内容が成果になるのではないかと。研究の成果が見えるような記載にしてほしい。

○井上委員長

大学もそれぞれ特徴や良さがあるので、その部分が見えていないのは残念である。

○武岡委員

「手段」・「意図」に「江別市の課題解決や地域活性化に貢献する・資する研究事業に対し補助金を交付する」とあるが、資料4「平成28年度えべつ未来戦略推進計画書」には「未来戦略や市政の緊急課題に関する研究に対し助成」とあり、一致していない。事務事業評価表は、資料4のえべつ未来戦略推進計画書より具体性がなく、不十分な書き方になっている。

また、「目的妥当性」に「補助研究のテーマは、えべつ未来戦略に係るものとしており」とあるが、この内容は「手段」や「意図」に記載した方が良い。

○千里副委員長

本事業はえべつ未来戦略策定より前に開始しており、混同している可能性がある。えべつ未来戦略については後に書いてあるので、整理したら良いのではないか。

実際には緊急性などを重視して補助金が出ており、戦略に則って行っているので、そこを記載してはどうか。

○井上委員長

他に意見がなければ、事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から事業（2）を説明】

・資料5 えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表（平成28年度実績）

（P11～P12）

事務局から議事（2）のうち「えべつ市民カレッジ（四大学等連携生涯学習講座）事業」を説明

【質疑】

○山下委員

「ふるさと江別塾」は重要だと思われるが、内容が分からないため具体的に記載してほしい。

「意図」に「問題意識と知識を獲得する」とあるが、問題意識を獲得するとは日本語としておかしいのではないか。

「成果指標」が「えべつ市民カレッジ講座数」なのはおかしい。担当課評価（3）「成果動向及び原因分析」では、「参加者数は増加しており」となっており成果指標とのつながりがない。また、担当課評価（2）「上位貢献度」に「まちづくりへの参加に繋げる」とあるがこれがこの事業の成果であり、狙いではないのか。

○小野寺委員

「手段」に「「ふるさと江別塾」の開催」とあるが、事業名の「えべつ市民カレッジ」の記載がなく「ふるさと江別塾」と「江別市民カレッジ」はどのような関係なのか。

色々なところに「ふるさと江別塾」「えべつ市民カレッジ」と記載があるが、どう違うのか内容が分からなく、混乱する。

「成果指標」に「えべつ市民カレッジ講座数」とあるが「ふるさと江別塾」の数値は出ないのか。

また、「事業を取り巻く環境変化」に大学側から要望があったのは理解できるが、そのことが市民へのどういう影響があったのか分からない。

担当課評価（５）効率性について、「講座にかかる謝礼（ふるさと江別塾）」とあるが、「えべつ市民カレッジ」には謝礼はないのか、など理解しづらい部分があるため、わかりやすい記載にしていきたい。

○井上委員長

事業費について平成２７年度と平成２８年度を比較すると、事業費が上がっているが、その理由の記載がなく、説明が不十分である。

○事務局

「ふるさと江別塾」と「えべつ市民カレッジ」の違いについては「事業開始背景」に記載しているが、評価表内に混在しており、記載の書き分けが必要かと思う。

○千里副委員長

「ふるさと江別塾」で、大学では市民講座を行っていた。それを連携して「えべつ市民カレッジ」として行っている。

「ふるさと江別塾」は依頼をうけて大学で開催しているため謝礼が有り、えべつ市民カレッジは大学で開催されているので謝礼がない。その説明がないので一部の人が理解できない記載となっている。専門の人間は専門の視点で無意識にそのような書き方になることがあるので、第三者が見ても分かるように記載していきたい。

また、「成果指標」に「えべつ市民カレッジ講座数」が記載されており、平成２９年度当初の件数が減少しているが、実施件数ではなく参加人数が適切である。会場に入りきらなく、断る場合もあるため、参加人数の増減も記載があると良い。

○井上委員長

時間の都合により、残りの事業は第２回委員会に行きたいがよろしいか。

3 その他

○井上委員長

では、３その他について、事務局から何か事務連絡等はあるか。

【事務連絡】

- ・第２回委員会の開催日の確認、第３回以降の委員会開催の日程調整について

4 閉会